

松竹大歌舞伎

松本幸四郎改め二代目松本白鸚 襲名披露
市川染五郎改め十代目松本幸四郎



松本幸四郎改め松本白鸚



市川染五郎改め松本幸四郎



市川高麗蔵



大谷廣太郎



松本錦吾



市川猿之助

一、二代目松本白鸚 襲名披露
十代目松本幸四郎
中嶋正留 美術
口上 幕

双蝶々曲輪日記

二、引窓 幕

三、色彩間 豆 清元連中

口上

松本白鸚
松本幸四郎
幹部俳優出演

引窓

南与兵衛 松本幸四郎
後南方十次兵衛 改五郎
女房お早 市川高麗蔵
三原伝造 大谷廣太郎
母お幸 松本幸雀
平岡丹平 松本錦吾
濡髪長五郎 改四郎

かさね

与右衛門 改五郎
市川猿之助
松本幸四郎

あらすじとみどころ

袴姿の俳優が舞台に並び、皆様に二代目松本白鸚、十代目松本幸四郎の襲名披露のご挨拶を申し上げる華やかな一幕です。

双蝶々曲輪日記 引窓

大坂で人気の相撲取り濡髪長五郎(白鸚)は、恩人を救う為に人を殺めてしまい、母お幸(幸雀)のもとを訪ねて来ます。わが子との久々の再会を喜ぶお幸でしたが、そこへ家主である義理の息子、与兵衛(幸四郎)が帰ってきます。皮肉なことに、父の跡を継ぎ代官に取り立てられたばかりの与兵衛の初仕事は、長五郎を捕縛することでした。しかし長五郎とお幸が実の親子であると気づいた与兵衛は、お幸の気持ちを察し、長五郎を落ち延びさせるのでした。

実子と義理の息子の間で苦しむお幸と、その気持ちを察する二人の息子、そして与兵衛の女房お早(高麗蔵)。月明かりの差し込む引窓を巧みに使いながら、お互いを気遣う人々の苦悩と情愛を描いた情緒溢れる義太夫狂言の名作です。

色彩間 豆

浪人の与右衛門(幸四郎)と腰元のかさね(猿之助)は、道ならぬ恋の果てに心中を約束した仲でしたが、与右衛門は土壇場で逃亡。追ってきたかさねと木下川の堤で再会します。川面に流れてきた髑髏に刺さった鎌で与右衛門が引き抜くと、美しいかさねの顔が、見るも恐ろしい形相に変化します。これは、与右衛門が行った悪事の因果。実は、与右衛門はかさねの母と密通し、義父を殺していたのです。与右衛門は義父を殺した鎌でかさねを殺しますが、今度はその怨念が与右衛門を襲うのでした。

色模様から壮絶な殺し場に至るドラマ性に満ちた怪談舞踊を、猿之助のかさね、幸四郎の与右衛門でご覧いただきます。